

だじゃれは正義のためならず

内田 麟太郎

とタイトルを付けたとたん、私のアンポンタンな脳味噌

には「だじゃれは正義のため、ならず者」というだじゃれが響きはじめております。

♪まじめちゃん さようなら

♪ぼくらは だじゃれにあそぶウッ

そうです。ダジャレニストは、唯一の真理とか、唯一の神さまとかを、常に横目で見ている輩なのです。なぜならば唯一真理主義者の人はいつも自信満々、自分を笑うこととかなかないでしょうから。笑うのはどこまでも敵の愚かさで、自分の愚かさではありません。このような方の好む笑いは、敵を笑う風刺漫画や風刺文学です。私が風刺の笑いを好まないのは、そこに知的上位者のいやらしい眼差しを感じるからです。

「愚か者、さがりおろーっ！」

ボク、おろかだもーん。おや、脱線しましたね。それでは脱線ついでに、「きくわん車」という少年詩はどうでしょうか。正しいことを子どもに伝えたいという見本のよう

な詩です。

きくわん車

きくわん車

くろい

つよいきくわん車

きくわん車

きくわん車

引っぱる

押して行くきくわん車（中略）

真夜中もはしるきくわん車

たいせつなきくわん車

中野重治。一九四六年の作品です。「最後の箱」というすぐれた作品を持つコミュニニスト詩人